

〈まめ知識〉なるほどと唸る言葉、ことわざ等

①理解もせずに褒めるな、りっぱな言葉と空虚な内容との結合の手本

この長談議の全体は、『資本論』とマルクスとが世間で、いかにわずかしき理解されていないかを知るうえに、きわめて特徴的である。彼らは、マルクスの叙述の巨大な論証力に圧倒されて、マルクスのまえに腰をかがめ、彼を賞讃する。だが、それと同時に彼らは、学説の基本的内容をまったく見おとし、なにごともしなかつたかのように「主観的社会学」の古い歌をうたいつづけるのである。この点について、われわれは、カウツキーがマルクスの経済学説にかんする著書のなかでえらんだ、きわめて適切な題詞をおもいださずにはいられない。

Wer wird nicht einen Klopstock loben?

Doch wird ihn jeder lesen ? Nein.

Wir wollen weniger erhoben

Und fleissiger gelesen sein !

[だれかクロブシュトックをほめたたえないものがあるろう？

だが、だれでもそれを読むだろうか？ いな。

われわれは、賞讃されることは、よりすくなくとも、

より精出して読まれることをのぞむ！]

まさにそのとおりである！ ミハイロフスキー氏は、マルクスの礼讃をもっとすくなくして、マルクスをもっと精出して読むか、あるいは、こうすればもっとよかつたのだが、その読んだことをもっと真剣に考えてみるべきであつたらう。

「マルクスは、『資本論』のなかで論理の力と博識との結合の手本をわれわれにあたえた」——と、ミハイロフスキー氏は言う。ミハイロフスキー氏は、この文章のなかで、りっぱな言葉と空虚な内容との結合の手本をわれわれにあたえた——と、ある、マルクス主義者は批評した。そして、この批評はまったく正しい。

第一巻「人民の友」とはなにか P126~127 1894年春～夏

②「地獄への這は善意で敷きつめられている」ということわざ

単なる善意ではなんの役にも立たない、という意味。

第一巻「人民の友」とはなにか P246

③「プロクルストゥスの寝台」

プロクルストゥスというのはギリシア神話中の強盗で、旅人を家に案内して鉄製の寝台に寝かせ、その旅人の身長が寝台よりも長ければあまった部分を切りとり、短かければ引きのばして、ちょうど寝台の長さにあわせたとはいつたえられている。転じて、むりに規格、等々にあわせること。 第一巻「人民の友」とはなにか P559~560

④アルカディア

古代ギリシャのペロポネソスの奥地の風光のきれいな山地で、その住民は理想郷をつくっていたとつたえられる。転じて桃源郷の意。

第一巻 ナロードニキ主義の経済学的内容 P561

⑤ゴルディウスの結び目を断ちきる

フリージアの王ゴルディウスのむすんだ結び目を解いたものはアジアの王となるという託宣を聞いて、アレクサンドル大王はこれを一刀のもとに両断して問題を解決したといわれる故事から、この言葉は、非常手段によって難問題を解決することを意味する。この場合は、難問題にたいして解決にならない解決をあたえること、無根拠な解決策のことである。

第一巻『ナロードニキ主義の経済学的内容』 P563

⑥イスクラ=火花

こうして、坊主とスパイの承認を受けない、彼らの調査を経ない「外部の人間」が、労働者の勉強を見てやろうとのぞむなら、——それはつまり、あからさまな革命なのだ！大臣は労働者を火薬と、そして知識と教養を火花とみなしている。もし火花が火薬のなかにおちるなら、爆発はなによりもまず政府にむかっておこるであろう、と大臣は確信しているのだ。

第二巻『わが大臣たちはなにを考えているか？』 P74 1895 年末執筆

⑦cottage=田舎小屋　そこに住む人=コテージャー

コテージャー——コッターともいう。封建時代のイギリスで農奴よりも悪い状態にあった小屋住みの百姓。保有地の大きさは、農奴の 15~20 エーカーにたいして、コテージャーのそれは 5~10 エーカーにすぎなかった。封建制度の解体は、コテージャーを土地から駆逐し、彼らの経済状態はいつそう悪化した。資本主義への過渡の時代に、エリザベスの法律はコテージャーに四エーカーの土地を維持させるように規定したが、時勢はその法律を無視して発展し、小土地所有は容赦なく一掃されていき、コテージャーは窮民に転落した。

第 2 巻『経済学的ロマン主義の特徴づけによせて』 P547

⑧ピンダル

古代ギリシアの抒情詩人。彼の数多くの作品のうち、勝負事の勝利者を讃えた四巻の詩が現在までのこっている。ピンダルの名は、すべての、行きすぎた賞讃者の総称となった。マルクスは『資本論』の第一巻で、資本主義の弁護者ユア博士を「自動的工場のピンダル」とよんでいる（第一巻、第 13 章、440 ページ）

第三巻『ロシアにおける資本主義の発展』第三章 P228 注 P689

⑨最後に笑うものはもっともよく笑う！ [rira bien qui rira le dernier!]

第四巻『農業における資本主義』 P129 1899 年 4 月～5 月執筆

⑩政治的抗議が宗教的外装のもとに登場することは、

政治的抗議が宗教的外装のもとに登場することは、一定の発展段階であらゆる民族に固有な現象であって、ロシアだけのものではない。第四巻『わが党の綱領草案』P258

⑪「ハンニバルの誓い」

最後までだたかいぬくという不拔の決意を意味する比喩。カルタゴの将軍ハンニバルの名（前246~183年）から出た。

第四巻『183人の学生の兵籍編入』P456 1901年1月に執筆

⑫キリストは力や処刑によってではなく、真理と愛によってもろびとの心を得たのである。

第五巻『国内評論』P300 1901年10月に執筆

⑬prius=先行物

「商品生産」一般は、理論的にも歴史的にも資本主義にたいして prius〔先行物〕である。

第六巻 P29

⑭下層のものが戦い、上層のものが利用する。

ロシア革命はまだはじまったばかりである。それなのに、それはもうブルジョアジーの政治革命の通例の諸特徴をまったく明瞭に現している。下層のものが戦い、上層のものが利用する。革命闘争の非常な重荷の全部は、階級としてのプロレタリアートと、さらにブルジョア・インテリゲンツィア青年のうちの個々の人間とに、ことごとくかかってくる、いまもかかっている。

第8巻『政治的詭弁』P428 1905年5月18日

⑮ボナパルト主義

「形式的には適法的であるが、実質的には人民または党の意志に反した方法で、権力を獲得すること」（レーニン）。レーニンは、第二回党大会の意志に反することを熟知しながら中央諸機関——新聞『イスクラ』、中央委員会、党評議会——を乗とったメンシェヴィキを、ボナパルト主義者と呼んでいる。

⑯批判の武器と武器の批判についてのマルクスの言葉

マルクスの『ヘーゲル法哲学批判序説』のなかのつぎの有名な言葉のこと。「たしかに、批判の武器は武器の批判に加わることはできない。物質力をたおすのは物質力でなければならない。しかし、理論といえども、それが大衆を把握するやいなや、物質力となる……」

（選集、補巻4、183ページ）。 第9巻 P90 事項訳注(P504)

⑰『ユマニテ』（『人道』）

第9巻 P93 事項訳注(P504)

はじめ、一九〇四年にフランス社会党の機関紙として、ジャン・ジョレースによって創刊された。一九二〇年十二月の大会で社会党が分裂し、フランス共産党が創立されたあと、『ユマニテ』は後者の機関紙になり、現在もパリで党の中央機関紙として発行されている。

⑱「悪口は論拠をもたない人間の論拠だ」というフランスの格言

第9巻『腹を立てた無能力者』P154 1905年7月26日

⑲「悪魔の代言人」

元来は、カトリック教会で、死者を聖者に列するとき、その候補者についていろいろ故障を言いたてる非難役。転じて、人の弱点だけをみて難癖をつける人。

⑳「すべての比喩は不完全である」というドイツの格言

第10巻「党組織と党文献」P31

㉑議会主義的クレチン病

第11巻 事項訳註 P513

議会制度は全能であり、議会闘争こそ唯一の、またどんな事情のもとでも重要な、政治闘争の形態であるという日和見主義者たちの信念を、マルクスはこう呼んだ。クレチン病はアルプス山地に見いだされる流行性または遺伝性の白痴病。

㉒もし君が賢い人ならば、……

「私は、これに関連して、はからずも古代哲学者たちの対話の席にはじめて同席して、そこでずっと沈黙をまもっていたある未知の人についての話を思いだした。哲学者の一人がこの未知の人に言った、——「もし君が賢い人ならば、君のやっていることは、愚かなことだ。もし君が愚かな人ならば、君のやっていることは賢いことだ」と。」

第15巻『ロシア革命における社会民主党の農業綱領』P155

㉓「どうぞお先に射ちたまえ、ブルジョア諸公！」〔選集、第17巻、405ページ〕

この言葉のなかに、エンゲルスは1892年に、革命的プロレタリアートの地位の独自性とその戦術的任務の独自性とを言いあらわした。

社会主義的プロレタリアートは、死を宣告されているブルジョア社会のありとあらゆる法秩序をうちくたく革命的大衆闘争が、自分のまえにせまろうとしていること、しかも不可避免的にせまろうとしていることを、かたときも忘れないであろう。同時に、ブルジョアジーの半世紀にわたるブルジョアジーの法秩序をブルジョアジーにむかってみごとに利用してきた党には、敵が自分自身の法秩序でがんじがらめになってしまい、敵が「先に射つこと」をよぎなくされ、自分自身の法秩序を引きさくことをよぎなくされているという、闘争におけるそういう便宜、交戦におけるそういう利点を、放棄するいわれはすこしもない。 第16巻『二つの世界』P329

㉔「ここがロードス島だ、ここでとべ！」 Hic Rhodus, hic salta!

アイソポス（イソップ）の寓話から。自分がかつてロードス島の跳躍競技でものすごくとんだといい、それについては証人もいると自慢した人がいた。このほらふきにむかって、ある人がこたえてこういった。——それがほんとうなら証人はいない。「ここがロードス島だ、ここでとんでみせろ」と。 第16巻 事項訳註 P477

⑳ヘロストラトス式に有名な

第16巻 事項訳注 P480

ヘロストラトスは古代ギリシアのエフェソスの人で、自分の名まえを後世まで不朽のものにしたいという希望から、紀元前 356 年に当時尊崇のまのであつたエフェソスのアルテミスの大神殿に放火した。

㉑サウロのパウロへの転化

第 16 巻 事項訳注 P484

サウロはパウロのもとの名。はじめサウロはキリストの弟子を脅迫、殺害していたが、改心してイエスのことを宣伝するようになった（新約聖書の使徒行伝の篇）。ここではブレハーノフがレーニン反対の立場からレーニンと協同関係に立つようになったことをさしている。

㉒もしーかけらのパンをぬすめば監獄につながれるが、

「もしーかけらのパンをぬすめば監獄につながれるが、鉄道をぬすめば上院議員に任命される」というアメリカのことわざ。 第 17 巻 P128

*マルクス・エンゲルスの著作にも同様の言葉がある。

㉓政治的権利とは勢力関係を定式化し記録したものである

政治的権利とは勢力関係を定式化し記録したものでなくてなんだろうか？ 君は権利についての自分の定義を西欧の教科書から書きうつしているが、これらの教科書は、西欧における長期にわたる戦闘の一時期の結果として、西欧のブルジョアジー、西欧の農民、西欧の地主＝封建領主、権力等のさまざまな分子のあいだに（原則的にこれとはべつの労働者階級の運動が現れる以前）勢力関係が確立した結果として現れたものを記録したものである。 第 17 巻 P460『プロスヴェシチェーニエ』第 1 号、1911 年 12 月

㉔外国で見るもの

シチェペテフ氏は、民主主義に敵意をもつ俗物——ルーシに大衆的民主主義的書物がはじめて現れたことに、ただ「不穩」しか見てとることのできなかつた、俗物の目で、パリを観察した（観察したとすれば）。

周知のように、外国にいった人は、それぞれ自分の見たいとおもうものを見る。言いかえれば、各人は新しい環境のなかで、自分自身を見る。黒百人組の者は外国で、すぐれた地主や将軍や外交官を見る。保安部員はそこで、きわめて上品な警官を見る。ロシアの自由主義的変節者がパリで見るとは、……

第 18 巻『民主主義派にたいするさらに一つの戦役』 P335

㉕ユートピア

ユートピアというのはギリシアの言葉〔ウートポス〕である。「ウー」はギリシア語で「ない」という意味であり、「トポス」は「場所」という意味である。だから、ユートピアというのは、存在しない場所のことであり、幻想、架空のこと、お伽話である。

第 18 巻 P380『二つのユートピア』

⑳ばかも7人よれば

ばかも7人よれば70人の利口がこたえられないほどたくさんくだらない、からっぽで的はずれな質問をだすことができる、ということわざ。

第19巻『ロシア社会民主労働党の民族綱領について』P588

㉑誤ちはだれでもやるが……

第19巻 P597

「誤ちはだれでもやるが、誤ちを固執するのは愚か者だけだ」というラテン語の諺。

㉒意識は存在に立ちおくれるものである。

第22巻 P208

存在が意識を決定するが……注) 青山

㉓パリコミュンと婦人

1871年5月にイギリスの一新聞につきのように書いたのは、コンミュンを目撃した一ブルジョアであった。「もしフランス国民が婦人だけからなりたっていたなら、彼らはどんなにおそるべき国民になるだろう！」と。コンミュンのときには、婦人や13歳以上の青年も、男子とならんでたかかった。そして、ブルジョアジーを打倒するためのきたるべき闘争でも、これ以外ではありえない。すぐれた武装をもつブルジョアジーが、貧弱な武装しかもたず、あるいはまったく武装していないプロレタリアを撃ちたおすのを、プロレタリア婦人は消極的に傍観してはいないだろう。彼女たちは、1871年のときのように、ふたたび武器をとるであろう。 第23巻『プロレタリア革命の軍事綱領』P86

㉔「すべて戦争は別の手段による政治の継続である」

㉕アジ豆のあつもの

ささいな物質的利益のために行動するばあいにもちいられることば。旧約聖書のイサタの長子エサウが、パンと「アジ豆のあつもの」のために弟ヤコブに長子権をゆずった故事から出ている。

第25巻 P553 事項訳注

㉖好評は座し、悪評は走る

第27巻 P374～375

③⑩資本主義社会の準則——「各人は自分のために、神だけが万人のために」

旧資本主義社会のいとうべき準則、われわれがこの社会からうけついで準則、われわれのだれもが多かれすくなかれ感染し、墮落させられている準則、「各人は自分のために、神だけが万人のために」という準則に新たな打撃をくわえるために、できるだけ広い大衆をくりかえし立ちあがらせよう。なによりもわれわれを窒息させ、おさえつけ、傷つけ、くるしめ、だめにしているのは、汚らわしい、血まみれの略奪的資本主義のこの遺産なのである。この遺産から一挙にのがれることはできない、それとのだゆみない闘争が必要である、それにたいして、一度や二度ではなく、なんどもなんども新たな十字軍を布告し遂行しなければならない。 第28巻『すべてを食料調達活動と輸送活動に傾注せよ！』P425、475、『プラウダ』第19号、1919年1月28日

③⑨反復は学習の母である。

第31巻 P503

④⑩「狼といっしょにくらすときは、狼のようにほえよ」

「狼といっしょにくらすときは、狼のようにほえよ」、「出陣のさいに自慢するな、帰陣のさいに自慢せよ」というロシアの賢明なことわざ。 第33巻P104

④⑪「人間の欠点は、その長所と結びついているのが普通だ」 第33巻 P169

ここでフランスのあることわざを引用しよう。それはこういうのである。

「人間の欠点は、その長所と結びついているのが普通だ」

人間の欠点は、いわばその長所の延長である。長所が必要以上に延長されると、それが必要でないときに、また必要でないところで発揮されると、その長所は欠点となる。